「ＣＡＴＹ」の名前は、「ＣＡｍｐｕｓ」と「ｃｉＴＹ」からの造語で、地域と大学の相互理解、交流促進を目的として生まれました。「地域との共生　社会に学ぶ」を合いことばに、高等教育機関としての教育研究の成果を、地域に発信します。また学生が取材活動を通じて、読む・書く・話すといった能力を開発していくことも意図しています。

http://www.kokugakuin-jc.ac.jp

# News CATY（ニュース キャティ）

２０２１年３月　第138号

発行／國學院大學
北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
編集事務局長　矢口元晴

## パンデミックを乗り越えて

國學院大學北海道短期大学部　学長　平野泰樹

卒業おめでとうございます。2年生にとって卒業年度である令和2年度は、新型コロナウイルスによる百年に一度といわれるパンデミックに見舞われた大変な一年でした。100年前にもスペイン風邪（新型インフルエンザ）が世界に蔓延し、5億人が罹患して、5000万人が死亡したといわれています。日本でも国民の約半分が罹患し、50万人が亡くなったといわれています。スペイン風邪は第三波以降収束しましたが、グローバル化が進む現代では第四波も懸念されており、収束にはより長い時間がかかるかもしれません。今後、経済活動への影響が深刻化していけば、皆さんの仕事や就職活動にも影響が及ぶことでしょう。

私が学生の頃、ドルショックによる変動為替制の導入、中東戦争による第一次オイルショックが就職難をもたらしました。平成になるとバブル経済が崩壊し、多大な不良債権を抱えた大手金融機関の破綻、不良債権処理に起因する不況、そして就職氷河期が到来しました。さらに平成20年には、アメリカに端を発したリーマンショックが世界的な不況をもたらし、回復しかけていた日本の経済にも大きな打撃を与えました。その間、政府は一部の業種に限定していた派遣労働を全面的に解禁し、雇用の調整弁となる非正規労働者を大量に生み出しました。そして今、新型コロナ禍がそうした経済的弱者を直撃しています。

多くの人々が時代の変動や激動に翻弄されてきました。残念ながら、私たちは自分の生まれた時代との巡り合わせから逃れることはできません。自分が生きていく時代を受け入れ、そして人生を切り拓いていかなければなりません。遠くない将来、大地震、地球温暖化による気候変動、世界的規模の食糧危機、水資源の枯渇危機が予測されています。さらに、過激化するグローバル経済や金融がどのような時代を生み出していくのか不透明ですが、このパンデミックを乗り越えていく皆さんはきっと知恵を絞り逞しく自分の時代を生きていくことでしょう。皆さんの未来に幸あらんことを切に祈ります。

# 「卒業特集」未来へ力強く抱負

## 目標だった金融機関に就職
## 人との繋がり大切に

私は、この短大に入学する時、「何事にも意欲的に取り組む」ということを目標にしました。入学後、サークルでボランティア活動を行ったり、難しい講義も諦めずに取り組んでみたりと、様々な経験ができました。

その中でも、2020年は全国的な新型コロナウイルス感染拡大のため、講義がオンラインで行われたり、課題やテストへの取り組み方が変化したりと、なかなか慣れないことが起こりました。私は就職活動もしなければならなかったため、今までと違う状況にどう立ち向かっていけばよいのか分からなくなり、うまく就職活動が出来ずにいました。ですが、オンライン講義で顔を合わせれば、変わらない友人や、大変な状況でも講義をしてくださる先生がいました。

また、キャリアセンターの方々が、メールでの求人情報の通知や、オンラインでの模擬面接など、学生一人一人を気にかけてくださり、私は無事に就職活動をすることができました。

卒業後は、1年次から希望としていた金融機関に就職し、地元である滝川で暮らしていきます。この2年間で私は、人と人の繋がりの大切さを身をもって学びました。社会人として、この繋がりを忘れないように生きていきます。2年間本当にありがとうございました。（国文学科2年／大浦穂香）

## 私を成長させた滝川での生活
## 教師への夢一層強く

私にとって滝川で過ごしたこの2年間は挑戦の連続で、私を大きく成長させてくれました。この2年間を有意義なものにしたい一心で、講義はもちろん、学生会活動やボランティアにも積極的に参加しました。「何のためにここへ来たのか」と常に自問自答し、初心を忘れずに生活することが、挑戦への活力になりました。

学生会では、ありす祭1年生企画の代表を務めたことが思い出に残っています。企画・運営で悩むこともありましたが、仲間の協力のおかげで当日は成功を収めることができました。学習ボランティアや教育実習では、自分の未熟さを痛感しながらも、多くの学びを得ることができました。子供たちとの関わりは、教育者としての不十分さだけでなく、教師という職業の魅力を教えてくれるものでした。宿泊学習ボランティアでは、学業との両立に苦労もありましたが、共に過ごす子どもたちの笑顔や「ありがとう」という言葉は、何ものにも代えがたい達成感や充実感を与えてくれました。

日々の講義や挑戦から、教師を目指す気持ちが一層強くなり、昔からの夢に少し近づけたように感じます。今後も國學院大學北海道短期大学部での学びを胸に、夢に向かって歩んでいきます。

この2年間に出会った全ての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。（幼児・児童教育学科　児童教育コース2年／松本真如）

## 英語教師めざし奔走した2年間
## 編入後も全力で挑む

一般的には短大から4年制大学に編入学するということはあまり例がないことだと思いますが、國學院大學北海道短期大学部では多くの学生が4年制大学に編入学しています。

このような状況の中、私は総合教養学科でただ一人、英語教員免許状の取得を目指してきました。

「本学で英語教員免許の取得を一人で目指した学生はかつていない」と先生方から話を聞いていましたが、そのような中で自分の目標を見失うことなく、継続することができたことにまず自信を持ちたいと思います。

また、教職課程を履修した多くの学生が母校での教育実習を行う中、私を含め数名の学生が滝川市内で教育実習をさせていただきましたが、このことも非常に貴重な経験になったと思います。教育実習校では、地域の特性を生かした教育が実践され、なじみがない地域だからこそ、これまで私が経験してきた教育方法との差を実感することもできました。

このように、教職課程の履修は時間的にも精神的にもかなり厳しいものでしたが、有意義な学生生活を私にプレゼントしてくれたものと考えます。

さらに、新型コロナウイルス感染拡大により2年生では、オンラインでの授業となり、多くの課題提出に追われましたが、確実に対処できたように思っています。このような経験により、緊急の事態や例年通りにいかないことがあっても、冷静に対処する力が身についたのではないかと考えています。

多くのことを経験し学んだ2年間でした。國學院大學編入後も全力を尽くして頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。（総合教養学科2年／竜沢千颯）

## 4月から保育士としてスタート
## 笑顔を忘れず仕事に

私は國學院大學北海道短期大学部幼児・児童教育学科の幼児保育コースに進み、絵本の読み聞かせや手遊び、工作など様々な保育技術や、子どもや保護者に関する知識や接し方などについて様々なことを学んできました。

1年次は、自分たちで作り上げた劇やダンスなどを地域の子どもたちに披露する、「楽しい発表会」という行事がありました。時間をかけて、一から装飾やダンス、言葉かけなどをみんなで考えて作り上げたことはとても思い出深い経験となりました。

2年次は、新型コロナウイルスの感染が拡大し、なかなか学校に行くことができず、今までの行事や実践的な授業をすることができませんでした。2年次の保育実習では子どもたちが楽しめる活動を考え、「1日先生」をする指導実習がありました。知識や経験不足でうまくできるかどうか不安でしたが、保育士さんの丁寧な指導とアドバイスで長い期間の実習を終えることができました。

今年1年は大変な時期で様々な葛藤があり、思い描いていた学生生活ではありませんでしたが、春からは無事に保育士として働くことになりました。今までの経験や知識を最大限に発揮し、一人前の保育士になれるよう、笑顔を忘れずに頑張っていきたいと思います。（幼児・児童教育学科　幼児保育コース2年／梶田青依）

## 家主連絡協議会　吉田和幸
## 「転んでもただでは起きない」
## 卒業生たちにエール

皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業のはなむけとして「転んでもただでは起きない」という言葉を贈ります。

就職や編入という新しい世界に臨むにあたり困難に直面することもあるでしょう。人生の節目に環境が変わることで、失敗や挫折といった転ぶことも時にはあるものです。失敗したことに対して先輩や教員などから指摘を受けたり、場合によっては叱られたりすることもあるかもしれません。人間であれば誰でも心が傷つき、時には落ち込み感情的になったりすることもあるでしょう。

しかし、そこで終わらせてほしくないのです。その失敗や指摘を受けたことから必ず何かをつかみ取ってほしいのです。「転んでもただでは起きない」と前向きな気持ちに意識を向けることで、受けた心の傷も少し癒され忘れてしまうかもしれません。ただし、プラス思考を完全肯定しているわけではありません。今の時代、時には耐え切れない状況に追い込まれることもあるかもしれません。そういう時は逃げても結構です。しかし、そんな時も「転んでもただでは起きない」という気持ちを忘れないでください。

これから待っている楽しいこと、時には辛いことから多くのことを貪欲に吸収し、人生を実り多い充実したものにしてください。

# 本年度で退職の教職員からメッセージ

今年度をもって5人の先生方が退職されます。幼児・児童教育学科の黒阪陽一先生、松田由理子先生、松村澄絵先生。事務局の熊谷千秋先生、健康相談室の辰巳真由美先生です。長年に渡り学生をご指導いただき、ありがとうございました。

## 紅花のように個々の道を
### 卒業おめでとう

熊谷千秋

辰巳真由美

《紅花（ベニバナ）栃（トチ）の木（キ）》と云う樹の名前をご存知でしょうか。毎年5月になると、私達の学校の北側道路ぞいに薄紅色の花を咲かせてくれる樹の名前です。開学以来植えられていましたので、記念の樹だったのかもしれません。毎年、新入生を迎えるように咲いてくれるこの花が、私は好きです。いつも絵にしてみたいと思いながらスケッチ程度のことしかできず、今に至ってしまいました。

植えられて40年、最近少し弱ってきているようで、自身の老いを重ね合わせ少しあせり気味ですが、これを絵にするのが今の私の宿題のひとつとなっています。今年は思いもかけぬパンデミックに見舞われ、ずいぶん不自由な思いを強いられた私達ですが、この雪が解けて春になれば、この樹は何事も無かったようにまた愛らしい花を咲かせ、新しい学生を迎えてくれるのでしょう。

この1年、私達は自然や人間について多くの事を学びました。この花があたりまえのように咲くように、皆さんもあたりまえのように、それぞれの道を歩んで行ってください。ご卒業おめでとうございます。

幼児・児童教育学科教授／黒阪陽一

左から松田由理子、黒阪陽一、松村澄絵

## 学生とともに学んだ18年間
### 多くの出会いに感謝

國學院大學北海道短期大学部に勤務する前は幼稚園教諭として、30年間幼児教育に携わっておりましたが、現場での経験を活かすことができ、学生の皆さんのお役に立てるのであればと考え、短期大学部で教職に就くことにいたしました。

気づけば18年間勤務させて頂いたことになります。勤務してからは、短期大学部だからこそ経験し学べることがありました。それは中空知図書館ネットワーク推進事業や滝川市立図書館との連携です。図書館職員の皆様方と共に目的を達成するために事業を展開することを通じて、学生たちと連携し協働すること、人と人との繋がりを深めることが大切であり、地域には必要なことと教わりました。学生たちには大変良い機会となり、実り多い経験となりました。本当にありがとうございました。

授業を通しては、学生たちの目的に向かう妥協しない姿勢からパワーを頂き、頑張れた気がします。ありがとうございました。

卒業される皆様、ご卒業おめでとうございます。4月からは社会人ですね。どうぞ自分の可能性を信じて活躍してください。最後になりましたが、教職員の皆様にはご指導、ご助言をいただきましたことに心から感謝いたします。

幼児・児童教育学科特別専任准教授／松村澄絵

## 充実した教員生活に感謝
### 短大部の益々の発展を

令和3年3月31日をもちまして、國學院大學北海道短期大学部を退職いたします。在職中は教職員の皆様にお支えいただき、充実した教員生活を過ごすことができました。心から感謝申し上げます。

今後は教員生活で長い間お休みしていましたクラシック音楽の声楽曲、幅広い年齢層の方々に歌い繋げていきたい日本や世界の様々なジャンルの曲の演奏活動をすると同時に、全国各地で活動している方々の声楽指導を中心に過ごしていきたいと思っています。

國學院大學北海道短期大学部の益々のご発展と教職員の皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

幼児・児童教育学科教授／松田由理子